



「A I時代」と言われるけど

福井県小学校長会

会長 井上政夫



内閣府が、第5期科学技術基本計画において目指すべき未来社会の姿として、Society5.0を提唱しています。これは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会を創ろうとするものです。これまでの狩猟社会がSociety1.0、農耕社会はSociety2.0、工業社会はSociety3.0、情報社会はSociety4.0と位置づけ、次世代がSociety5.0になります。

Society5.0で実現しようとしている社会は、Internet of Things (IoT)により、全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、少子高齢化や地方の過疎化などを克服した社会です。人工知能（A I）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行などの技術で、一人一人が快適で活躍できる社会を創ろうとしています。

この話を聞くと、すべてをA Iが行ってくれるので、A Iを使いこなせる高度な教育のみが必要なのではと考えてしまいます。しかし、内閣府の議論の中では、全く反対でした。「我が国の教育は、『A Iの時代』と言われても全く浮き足立つ必要がない。これまでの日本の学校教育が大事にしてきた文書や情報を正確に理解し、自分

の頭で考えて伝えるベーシックな力こそ、A Iに使われるのではなく、A Iを使いこなしたり、A Iを生み出したりする基盤になると考えている。これからはエリートではなく、ベーシックな力をもった市民の層の厚みが最も大事である」と議論されているのです。

この話を聞いて、急激に近代化していった明治時代を思い浮かべました。日本は、「富国強兵」というスローガンの下、近代化に成功します。成功した理由の一つに、国民の識字率が高く、ほとんどの国民が読み書きができたことがあげられています。教育水準の高さが、近代化の成功に結びついたので。

「A I時代」到来は、ある意味革命です。その革命が成功するか否かは、国民の教育水準にかかってくるのです。新学習指導要領が、「主体的・対話的で、深い学び」を求めている背景もわかってきました。

新学習指導要領が求めているハードルは高いですが、福井県小学校長会191名が一丸となって校長としての力を十分に発揮し、改革に対応できる新しい学校づくりに寄与されることを期待します。また、本會報107号の発行にあたり、ご指導とご協力いただきました関係各位、並びにご尽力いただきました編集広報委員会の皆様に心から感謝申し上げます、挨拶といたします。

知事講話

第70回福井県小学校長学校運営研究大会

知事講話概要

福井県知事

西川 一 誠

福井県小学校長学校運営研究大会の開催されるにあたりお祝い申し上げます。日ごろから、子どもたちの学力向上と健全育成のため、日々御尽力されていることに心から感謝を申し上げます。本日の大会は、県内の全小学校の校長先生が一堂にお集まりいただいているので、この場を借りていくつかお話しさせていただきます。

福井は教育県として注目を集めています。昨年度は、世界32の国やすべての都道府県から、2,700名を超える教育関係者が視察のために福井を訪れました。そして皆さんの先輩である牧野先生が、3年間和歌山県の改革や助言に行かれました。今年度から教育総合研究所長として就かれています。

また、引き続き教員1名を県の東京事務所に派遣しています。私学や進学塾における指導方法や教材の分析を行うとともに、文部科学省や東京都教委が主催する研究会などにも参加し、本県の先生への多くの情報を提供するよう努めてもらっています。

本県の学校で直接学ぶため、今年度は茨城県、埼玉県、長野県など6つの県から12名の先生に小・中学校などで勤務していただいています。皆さんの学校にもお世話になっています。一方、1名の先生を県外の学校に派遣し、他県から学んでいただいています。今年度から文部科学省初等中等教育局の国際教育課にも教員1名が専門職として赴任し、福井県が外国語教育の先進県ということで、国が進める外国語教育についての最新の動向を全国に普及しています。福井県の先生は頑張っています。

県教育委員会から校長先生の心構えとして伝えてほしいといわれたことが3つあります。

- 1つ目は 世の中の動きに敏感であること
- 2つ目は 最前線で仕事をする事
- 3つ目は 教員とのコミュニケーションをとること。

これは同感です。

NHK第2放送では、基礎英語などが流れていますが、皆さん何かお聞きになっていますか。数年前は数名でしたが、今年は約4割の校長が聞かれています。これは課題があると思ってください。15分間の365日は膨大な情報ですから、今日からラジオを聞き始めて、教員にアドバイスしていただきたい。

「もう校長になった」と考えるのではなく、「まだ校長になったばかり」と考えることが大事です。これからまだ30年間教育に携わっていくという気概でいてほしいのです。世の中は期待しており、地域に伝えてほ



しいです。まだこれからだと考えてほしい。人生の心構えとして、これまでの経験や実績、校長先生である、あるいはあった事実を手放さないで、携わっていただきたい。

校長先生は、教員に対しいろいろとこまかく指示するのではなく、的確なアドバイスをしていく必要があり、広い視野をもてるよう「学び続ける校長」であっていただきたい。

第2に絶えず最前線で指揮をしているという意識をもち続けてほしい。校長になるとどうしても、教頭や学級担任などに任せるといえることが多いと思いますが、できるだけ直接的に学級担任などと話をし、情報を取り、意見も聞いて仕事を進めることが大事です。緩やかな、しかし確かな指導を受けているという気持ちにさせてほしいです。学校運営には大切であると思います。

「ぼっちゃん」や「青い山脈」など昔の小説や映画などでは、校長先生はつわもので、あまりいいイメージがなくいい立場ではないですが、「二十四の瞳」「赤毛のアン」などでは教員のイメージはいいです。別室でじっとしてはだめであり、そんなこと聞いていない、知らないではなく、最前線で目が届く範囲をしっかりもって見ていただき、いろいろと教員に話をしていただきたい。

ナポレオンは常に単身最前線で敵の矢面に立ち、味方を奮起させたようであります。そのことでいろいろなことがわかったようです。遠くで見ているのではなく、直接性が大事です。

第3に教員とコミュニケーションをとることです。

校長先生は子どもの目から見るとおじいさんです。朝礼で長話をするに精力を注がないでほしいです。校長室で子どもと話をしても、校長先生は嬉しいかもしれませんが、子どもにとっては嬉しくないかもしれない。子どもと一番年が離れていることを自覚してほしい。

それよりも、教員と日常的なコミュニケーションを取ることが大事で、教員の機嫌をとってはいけないです。教員と一緒に学んでいく、教えていくということが大切です。

何百年も昔に、蓮如上人が福井県で布教活動を行いました。われわれの父祖である当時の人々に「ものを言え、ものを言わないと何を思っているかわからない」、「隠微にものを言うな」ということを口うるさく言っておられます。そもそも黙っていては、信じることができない。黙っていては良いことをしたりすることも困難なのです。ものを言いながら対話をして、それぞれ間違っているところは直し、いいところは励ましあうということが宗教の世界でも重要であったのではないかと思います。学校はものを言いやすい雰囲気であることが一番大事なので、お互いに意見を述べ合うことは重要です。そういう雰囲気をぜひとも校長が作ってください。軽やかに、もったいぶらずに、気軽に話していただきたいです。

最近目にしたNHKの視点・論点の中で、立川談四楼さんの話で、「ほめるコツ しかるコツ」というのがありました。「叱るときには、短く、ポイントを外さない、人がいないところで、環境を整えることが大切である」と言われていました。逆に、ほめるときには「ほめるのですから長く、ポイントがちょっとずれてもいい、人前でほめることがいい」とのことでした。ちょっとだけアドバイスみたいに叱ったつもりでも、人前で叱ると恥をかかされたといって恨みを買うことがあります。「ほめるコツ しかるコツ」を心得ていただきたいと思います。また叱ると怒るのと違うこともわかっていただきたい。

先生方の体験記などを本屋で読んだことがあります。この種の本によると小学校の先生方は楽しい、中学校の先生方は苦しいとありました。これはよくわかりません。楽しいことは大切であるが、単に楽しいだけでは不足していて、心の中で苦しさも入れて、内に秘めたものが大切です。今日の全体の話の中でつかんでいただきたい。

よく子どもたちに「力」をつけなければならないと我々は言いますが、しかし一体全体どんな力をどのようにつけるのでしょうか。何種類の力をつけますか。皆さんは何種類の力を使われていますか。教育に関する

ことには、学力、体力、読解力など、20種ほどの「力」があります。子どもは苦しいと思います。「〇〇力」をあまり言わない方がいいと思います。読解力がないから読めないだとか、計算力がないから間違うとか、全く意味のないことです。どうやってそのような力を付けさせるのか考えていただきたい。

人は、生まれ育った自然や歴史、文化に親しみ、郷土や先人の営みを学ぶことを通して、自分が住む地域をよく知り、ふるさとへの誇りと愛着、感謝の気持ちを抱きます。そして、地域の人々と関わる中で、連帯感や帰属意識が高まり、継承発展させようとする意欲や態度につながっていきます。都会や外国で働いて生活するようになったとしても、「ふるさと納税」などを通して、自分を育ててくれた福井に恩返ししてくれる、貢献してくれる人材を育成していくことが重要です。ふるさとを大切に、教育を進めることが大事です。

越前市出身の絵本作家かこさとしさんが先日お亡くなりになりましたが、かこさんは7歳まで過ごした越前市をいつまでもふるさとと考えていたそうです。身近なことを生かしながら、ふるさと教育を行っていただきたい。

今年は国体・障害者スポーツ大会、幕末明治福井150年の年です。国体は50年ぶりですし、「幕末明治福井150年博」と称し、幕末・明治の教育に関する企画展を開催しますので、ぜひ、子どもたちに見せていただきたい。先生方のお心配りをお願いしたいし、そのことが子どもたちの記憶に残ると思います。

福井ゆかりの百人一首などを取り入れた県独自教材「古典音読・暗唱ノート」や唱歌、童謡などを生かしながら、なくしてはいけないものを大切にしながら、つながりを大切に、教育を進めていただきたい。

保護者と地域と連携することは大切です。保護者や地域の人々に、自らの考えや教育活動の現状について率直に話るとともに、十分に意見を聞くなどの努力をはらっていただきたい。ひとつお願いしたいのは、学校で、保護者同士の意見交換の時間、コミュニケーションの時間をとっていただきたい。先生との意見交換も大切ですが、保護者同士の情報交換も大切です。

県では、子どもたちの能力をさらに伸ばし、夢や希望に向かって挑戦できるよう「ていねいな教育」「きたえる教育」を幼児期から高校卒業までの接続を重視した「福井型18年教育」として推進しています。高校には職業系高校や特別支援学校、普通科高校などがありますが、小学校で努力したことが、高校でもっと身を結ぶようしっかりやってほしいと高校側に言っています。

全国学力学習・状況調査の問題を子どもと同じ時間の中で解かれましたか、何点でしたか、採点を行いましたか。問題を解いて、思ったことなどを教員とコミュニケーションをとって、教員と連携をしながら、最新のものを入れながら、進めていただきたい。そのためにも、ラジオを聞いていただきたいし、テレビも見てください。自分で国語教育と英語教育の共通点や違う点を見つけていただき、国語教育に役立つようなことや英語教育に役立つようなことを研究していただきたい。日本語と英語の語彙の数はどちらが多いのか、日本語と英語は何が違うのかなどを研究していただきたい。英語で使われる頻度が「低い順」に、現在形、過去形、分詞、過去分詞、原形です。英語は2,000語で92%は話ができます。英語の単語と漢字を覚えるのはどちらが大変か。外国人は漢字を覚えるのは苦しいと言っています。「風速計」という漢字から意味がわかるが、英語ではギリシア語だから複雑で覚えにくいです。

漢字は読めるが、書くとなると難しい場合が多いです。読める漢字と書ける漢字の数は違います。英語の場合も知っている単語と書ける単語の数が違います。「知っている」と「書ける」が1対1で対応するように教えると子どもは苦しいです。今後国語教育と英語教育の比較の中で、教育を進めていただきたい。

最後に、大過なく無難にと思うだけでなく、背伸びし、「こと」をおこしていただくことを期待しています。

校長会に望む

第70回福井県小学校長学校運営研究大会

県教育長挨拶

福井県教育委員会教育長

東村 健治



県下の小学校の校長先生方が一堂に会して、このように小学校長学校運営研究大会が盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。また、皆様方には、日ごろから本県の教育力向上のため御尽力されていることに敬意を表するとともに感謝申し上げます。

新学期が始まり1か月が経過しましたが、新入生や新しい先生を迎え、どのような学校にしていこうかという新たな決意、思いをされた今の気持ちを大切にしていきたいと思えます。

福井の教育を支えているのは、学校経営のトップである校長先生方のリーダーシップであり、子どもたちの学力・体力の更なる向上に向けて皆さんに期待するとともに、最終責任者であるという自覚を強くもっていただきたいです。

連休が明けましたが、子どもたちの様子はどうでしょうか。新しい環境への適応がうまくいかず、心身に不調があらわれる注意すべき時期でもあります。子どもたちの些細な変化も見逃さず、家庭と地域と連携を図り、いじめ・不登校の未然防止や早期発見・早期対応に努めていただきたいと思えます。

不登校については、最少の平成24年度から年々増加しています。なんとしても不登校を減らすために、楽しい学校・学級づくりに取り組むなど、よろしくをお願いします。新たな不登校を出さないためにも、新たな取組が必要です。年3回の意識調査をしっかりと取り組み、子どもの実態を把握し、新たな不登校を出さないようにしていきたいです。

先月17日には全国学力・学習状況調査が実施されました。「学校マネジメント集」や「教材・評価問題集」、今後教育総合研究所のホームページに掲載される授業改善の資料を活用しながら、各学校でも独自に分析を行い、目の前の子どもたちのつまずきの解消や、今後同じようなつまずきが出ないように努めてほしいです。授業の改善が一番であるので、取り組んでいただきたいです。

今年度、本県の特産品や旬の食材などを使用した「福井の地場産給食」を年3回提供します。「地域と進める体験学習」や「古典音読・暗唱ノート」を活用しながら、ふるさと福井への誇りと愛着の心を育てていただきたいと思えます。福井に住みたい、福井に戻りたいと考える子どもが一人でも多く育つことを願っています。

全国的に教員の長時間勤務が課題となっています。各学校においても、先生方の勤務状況をしっかりと把握するとともに、効率的な業務を進め、長時間勤務の縮減に努めていただきたいです。校長先生のマネジメント力に期待しています。

福井国体まで142日となりました。先陣となる冬季大会では、過去最高となる総合6位の成績を収めました。50年に1回の機会であり、子どもたちの思い出に残るように、積極的な形での参加をお願いします。見たことのない種目もたくさんあるので、見せてほしいです。それが、大きな思い出になると思えます。

最後になりますが、小学校は地域の中心であり、保護者や地域の方々の学校への期待は大きいです。地域に溶け込んで、地域に顔を出して、強いリーダーシップの下、児童や保護者、地域住民に信頼される学校づくりに一層取り組んでいただきたいです。皆様方の益々のご活躍を祈念します。

平成30年度

福井県小学校長活動方針

福井県小学校長会は、結成以来、本県の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を積み重ねるとともに教育諸条件の整備・充実に努め、多大な成果をあげてきている。

今日、知識基盤社会への新たな進展やグローバル化の進行、急激に進む少子高齢化等により、先を見通すことが難しい時代を迎えている。さらに、持続可能な社会への転換が求められている。小学校教育においても、学習指導要領の改訂に伴い、激しく変化する社会の中で、自立した人間として他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力の育成が求められている。本県においても平成27年12月に「ふるさと福井への誇りと愛着をもち、自ら学び考え行動する力を育む」ことを基本理念とする「福井県教育振興基本計画」が示された。

こうした中であって、学校は、新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身につけた日本人の育成を目指すために、確かな学力や豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を実現するため、学校組織の活性化を図り、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努めなければならない。また、「福井型18年教育」「ていねいな教育」「きたえる教育」により、子どもたちに夢や希望を実現する「突破力」を身につけさせることも求められている。

さらに、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す英語教育の拡充・強化、いじめ等の問題行動や部落差別の解消に向けた人権教育と今年度から始まる道徳科への対応、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質能力の向上、特別支援教育の充実、教師が子どもたちと向き合う時間の確保など、対応すべき重要課題が山積している。また、危機管理体制の見直し、安全指導の充実、関係機関との連携を強化した防災教育の推進も喫緊の課題となっている。

このような状況の中で、校長は、現状を深く認識



し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、学校組織の活性化を図り、教育成果をあげていかなければならない。私たちは、組織の総力をあげて課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要がある。そのために、校長は自らの使命を自覚し、権限と責任のもとに、未来社会に夢と希望をもち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校づくりに努めなければならない。

以上の方針をふまえ、本年度は次の活動を重点として推進する。

本年度の活動の重点

1 学校経営の充実

校長自ら研鑽に励み、学校経営上の課題を明確にし、経営方針確立のもと、家庭・地域社会との連携、異校種間連携を密にして、危機管理体制の一層の充実により児童の安全確保を最優先に、創意ある教育活動を展開し、生きる力の育成をめざす開かれた学校経営の充実に努める。

2 研究活動の充実

学習指導要領改訂に伴い、研究主題「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に向けて研究に努め、その成果を学校経営で具現化する。また、東海・北陸地区連合小学校長会教育研究三重大会においてその成果を発表し、全国連合小学校長会教育研究北海道函館大会に参加する。

3 「生きる力」を育む創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善

学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を通じて思考力・判断力・表現力等の育成を図る。また、言語活動や体験活動の充実により、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え行動する力を身に付ける教育を推進し、協働して課題解決する力と確かな学力を育む授業改善に努めるとともに、心の教育を一層推進して豊かな心を育む道徳教育の充実・改善を図る。さらに、児童理解を深め、いじめ・不登校などに関わる課題の解決のために、いじめ防止基本方針や校内組織の整備、教育相談体制の充実を図ることや体力の向上など、健やかな心身の育成を図り、一人一人の自己実現を目指す教育の推進に努める。これらのことを重点に、心豊かにたくましく生きる力の育成を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。

4 教職員の資質・能力の向上

教職員に適切な指導助言を行い、学校内外の研修体制の充実を図りながら、学級経営、教科指導、生徒指導などの実践的指導力を高めるとともに、教職員人事評価システムを活用して、教職員一人一人に専門職としての自信と誇りを育む。また、新採用教員が増加する時期をむかえ、より一層、若手教員の資質・能力の向上を図ることに努める。

5 教職員の定数や処遇の改善

子どもたちと向き合う時間の確保、質の高い教育活動の実現に向けて、教育諸条件の整備や義務教育費国庫負担制度の堅持および義務教育諸学校の教職員の人材確保に関する特別措置法の堅持を強く求める。あわせて、これらの精神を十分尊重し、管理職を含む全ての教職員の職責に相応する適正な処遇が得られるよう、要望活動の強化に努める。

これらの活動を推進するために、東海・北陸地区および全国連合小学校長会との連携を一層密にして組織活動の充実にも努めるとともに、関係諸機関・団体とも連携し、小学校教育に対する正しい世論の喚起に努める。

主な委員会と活動事項

本年度の活動方針に基づき、本会の事業遂行のために次の専門委員会および特別委員会を設置し、事業を推進する。

(1) 専門委員会

◇人事行財政対策委員会

義務教育費国庫負担制度の堅持、教職員の定数改善、少人数学級の拡大を目指す学級編制基準見直しの促進、退職時の処遇の充実等のため対策・要請活動を行う。

◇調査研究委員会

今日の学校教育の課題や学校経営上の諸問題について調査研究し、対策に資する。

◇教育研究委員会

研究主題を設定し、研究活動の推進および教育研究大会の企画推進を行う。

◇編集広報委員会

「会報」の発行とホームページの開設により、情報の提供、成果の報告等を行う。

(2) 特別委員会

必要に応じて設置する。



平成30年度

専門委員会活動計画

人事行財政対策委員会

(要請活動・人対資料)

- 4月18日 ○第1回専門委員会
(第1回小学校人対委員会)
正・副委員長選出、活動方針・年間活動計画の協議
- 県教委への「教育長と語る会」、実施日程の依頼
- 5月 ○第1回小中合同人対役員会
正・副部長の選出
活動方針・活動計画の協議
- 「県教育長と語る会」に向けて、各郡市でアンケート等をもとに 提言内容の検討
- 7月 3日 ○第2回小学校人対委員会
(第1回小中合同人対委員会)
- 「県教育長と語る会」の事前打合せ
(話題、提言等について)
- 8月下旬 ○県教育長と語る会
- 10月 ○「語る会」についての報告
- ◎全連小人事対策研究協議会参加(委員長)
- 1月 ○第3回小学校人対委員会
(第2回小中合同人対委員会)
全連小報告
次年度に向けての課題の協議

調査研究委員会

(実態調査・調査報告)(全連小調査)

- 4月18日 ○第1回専門委員会
正・副委員長選出
年間事業計画の作成
調査テーマ、調査項目について
- 5月 ○各郡市において調査項目、調査内容について希望調査実施
- 5月24日 ○第2回専門委員会
調査研究項目・内容の決定
- 6月 ○各郡市において調査の実施及び集計
- 8月24日 ○第3回専門委員会
調査結果の分析と考察1
- 10月 ◎全連小調査研究協議会参加(委員長)

- 第4回専門委員会
印刷原稿校正
- 11月 ○報告書の配布
- 12月 ○各市町校長会で調査概要報告会実施

教育研究委員会

(研究推進)

- 4月18日 ○第1回専門委員会
正・副委員長選出
年間事業計画について
県・東陸・全国研究大会について
- 5月 ○東陸、全連小大会の参加者報告
- 6月 7日 ○第2回専門委員会
県小学校長教育研究南越大会について
東陸連小三重大会について
全連小北海道大会について
- 8月22日 第70回県小学校長教育研究南越大会
(越前市)
- 10月 4日 全連小北海道大会(～5日)
- 18日 東陸連小三重大会(～19日)
- 2月 ○第3回専門委員会
平成30年度南越大会反省
東陸、全国大会概要報告
平成31年度研究大会の概要

編集広報委員会

(会報発行)

- 4月18日 ○第1回専門委員会
正・副委員長選出、活動方針
各郡市原稿割当の確認・決定等
「会報」編集計画
- 5月 ○「会報」107号原稿依頼
- 7月 3日 ◎全連小広報担当者連絡会参加(委員長)
- 7月13日 ○一次校正締切
- 8月 ○第1回編集企画会議
二次校正、編集作業
- 第2回専門委員会
- 9月 ○「会報」107号発行
○「会報」108号原稿依頼
- 12月 6日 ○一次校正締切
- 1月 ○第2回編集企画会議
二次校正、編集作業
- 第3回専門委員会
- 2月 ○「会報」108号発行

校長講話

笑顔のあふれる学校に

福井市西藤島小学校長
塚谷 敏之

5年生と一緒に、福井市の少年自然の家で、集団宿泊学習をしてきました。

グループごとに、朝倉遺跡を回ったり、カレーライスを作って食べたりしました。カレーライスを食べるための、自然の木の枝を使ったスプーンを作りました。

もう一つ、焼き杉細工も作りました。杉の木の板をノコギリで切って、炎の中に入れて表面を焦がし、タワシでこすって磨いた後、ペンキで文字や絵を描きます。自分の部屋のドアに飾るために、名前をローマ字で書く人、勉強中やお昼寝中と書いている人もいました。

校長先生も焼杉を作りました。絵と文字は何を書こうかなと考えて、平仮名で「えがお」と書きました。「えがお」にはとても素晴らしい力があるからです。

私たちの体の中には、がん細胞が出来たり、悪いウイルスが体の中に入ってきたりしても、それを見つけて、やっつけてしまうナチュラルキラー細胞という免疫細胞があります。この細胞が減ると、免疫力が弱くなって、ガンになってしまうことがあります。ナチュラルキラー細胞を増やす方法は、無いのでしょうか。

ある研究によると、笑顔でいることで、ナチュラルキラー細胞を増やし、免疫力を高められることが分かりました。3時間ほど落語や漫才を聞いて、たくさん笑った後の血液の中の免疫細胞は、とても元気になり、ガン治療に使われる免疫を高める薬の力よりはるかに効果があったそうです。いつも笑顔の人といつも機嫌が悪い人とは、寿命が7年も違うそうです。

笑顔でいることの、もう一番の効果は、ストレスが無くなることです。笑顔になることで、脳の中に、幸せホルモンと呼ばれるセロトニンがたくさん分泌されます。このセロトニンが出てくると、心のストレスが解消されてプラス思考になります。笑顔になるだけで、いやなことがあっても明るい気分になったり、少しつらいことがあっても気持ちが楽になったりする化学物質が、頭の中に出てくるなんて、とてもすごい力ですね。

しかも、この力は、一人にだけ効くではありません。みんなが笑顔でいることで、その中に新しく入った人も笑顔になります。そうすると、みんなが明るい気分になれますね。

この板を校長室の前に下げておきます。それは、みんなに毎日笑顔でいて欲しいからです。病気にかからず、ストレスもなく、明るく元気で、幸せになってほしいと思います。周りの人に笑顔をつなげば、クラスのみんなども笑顔になります。クラスのみんなどが笑顔になれば、学校全体が笑顔になります。

先生は、笑顔いっぱいの学校にしたいと思っています。

伝統を大切に

坂井市立平章小学校長
甲斐和浩

今日は、「伝統」というお話をします。

この写真を見てください。(平成天皇の写真を提示) この方はどなたか分かりますか。そうです。天皇陛下と皇后陛下です。みなさんもテレビで見たことがあるかもしれませんが、日本の代表として外国の王様や大統領を迎えるなど、日本の国の大切なお仕事をされていらっしゃる方です。実はこの方のお父さん「昭和天皇」がこの平章小学校に来られたことがあるそうです。これがその時の写真です。(昭和天皇が来られた時の写真を提示) 実は昭和天皇のお父さんである「大正天皇」、大正天皇のお父さんである「明治天皇」も来られて、お泊りにもなられているそうです。

みなさんがいつも入ってくる校門に、こんな石碑があるのを知っているでしょうか。(「明治天皇丸岡行在所」の石碑写真を提示)

これは、明治天皇が平章小学校に来られたことを記念して建てられたものです。昔はこの前で必ずお辞儀をして学校に登校していたそうです。

では、どうして三代の天皇陛下が続けて平章小学校に来られたのでしょうか。それは、平章小学校には素晴らしい歴史と伝統があるからではないでしょうか。みなさんはそんな素晴らしい学校で学んでいることに誇りを持ってほしいと思います。

ところで平章小学校の素晴らしさとはなんでしょうか。坂井市のシンボル丸岡城がすべての教室から見えることでしょうか。日本一短い手紙で有名な「一筆啓上 日本一短い手紙の館」が近くにあることでしょうか。それももちろん素晴らしいことでしょう。

しかし、校長先生が思う平章小学校の誇りは、みなさんです。

まず、挨拶がしっかりできるということです。毎朝校門で元気な挨拶をしていますね。そして、しっかりお辞儀もしています。帰りも、朝に負けずに大きな挨拶をしています。そして、最近では、学校に来られたお客さんに「こんにちは」と元気に言える子も増えてきましたね。

まだまだあります。お掃除がしっかりできるということ。そして、優しさがあるということです。

この素晴らしい平章小学校の伝統をこれからも大切にしてほしいと思います。



「井上文庫」の心を受け継いで

越前市大虫小学校長
山本 英一

みなさんは井上文庫を知っていますか。渡り廊下や図書室に、井上文庫と書かれた本棚があります。今日は、この井上文庫についてお話しします。

井上文庫は、大虫小学校創立100周年の時、卒業生の井上柁弘さんが、「子どもたちに本をたくさん読んでもらいたい」と本を贈ってくださったものです。

井上さんは、本を贈ってくださる時、「私が子どもの頃、家はとても貧乏で、兄弟が使った教科書で勉強していました。学校の本も少なく、みんなで破れたところを直して、大事に読みました。私は家に帰ると田畑の手伝いをして、勉強したり本を読んだりする時間ありませんでした。担任の先生の昔話や紙芝居を聞くのが、楽しみでした。大人になったら、働いてお金をかせいで、本を買って読みたい、そんな思いをしていました。大虫小学校の子どもたちが、本をたくさん読んで、思いやりのある子・想像力のある賢い子になってほしいと願い、本をプレゼントします。」と話をされました。私はその時も大虫小学校に勤めていたので、よく覚えています。

さて、井上さんが、4月に大虫小学校に来られました。

井上さんは、仕事で福井に来る用事があり、大虫小学校に立ち寄られたのです。この日は、1年生の読み聞かせを見ていただきました。「本が大好きなみなさんに会えてよかったです。井上文庫の本をたくさん読んでもらってとてもうれしいです。」と喜んで帰られました。いつまでも故郷を忘れず、母校や子どもたちを大事にくださる心に感動しました。校長先生も、いい一日になったと、心が晴れやかになりました。

今は、本を読まなくても、パソコンやスマートフォンでいろんなことが分かり、便利な世の中になりました。でも、現代の人は、本を読んで場面を想像したり、人の心を思いやったりする力が不足しています。本は、自分の知らないことを教えてくれます。見たことのない景色やしたことのない体験をさせてくれます。本を読むと、頭の中で、人の気持ちを考えたり、その場面がどんなものか想像したりできるようになります。

朝読書の時間、教室で静かに本を読んでいる姿や図書室の本を抱えて、うれしそうに教室に戻る姿を見ると、校長先生はとても幸せな気持ちになります。

朝ごはんや給食など、食事は体の栄養です。そして、読書は、心の栄養です。しっかりご飯を食べ、たくさん本を読んで、体も心もすくすく成長して、立派な大人になってください。井上さんのように、人のために役に立とうとする心をもった人になってください。そのためにも、学校だけでなく家に帰ってからも、自分から本と仲良しになる習慣を身に付けてください。

「自分の足もとを見なさい」

おおい町立大島小学校長
中川 信之

「自分の足もとを見なさい」ということについて話します。「自分の足もとを見なさい」とは、「自分の靴をそろえなさい」という意味です。皆さんは、朝、学校に来た時、下駄箱に自分の靴をきれいにそろえて入れていますか。帰る時に上履きをきれいにそろえて入れていますか。朝、学校に来て、きれいにそろえられた上履きをはいたら、とても気持ちのよい一日が迎えられます。朝、学校に来て、靴をそろえて下駄箱に入れると、帰る時に気持ちよく靴をはくことができます。気持ちよく一日を迎える、気持ちよく一日を終えるために、下駄箱に靴をそろえて入れることを忘れないでください。

ところで、「自分の足もとを見なさい」の「自分の足もと」を「自分の心」に置き換えてみましょう。

「自分の心を見なさい」。どういう意味だか分かりますか。それは、「いつも、自分は思いやりの心をもって、友達や家族に話しかけたり助けたりしているか、自分の心と話しなさい」という意味です。友達をいじめていませんか。自分がされて嫌なことを友達や家族にしていますか。思いやりの心をもって友達や家族を手伝っていますか。お互いに褒め合ったり、「ふわふわ言葉」を言い合ったり、仲良く遊んだりしていますか。自分自身を振り返ってみましょう。

次に、「自分の足もとを見なさい」の「自分の足もと」を「自分の毎日」に置き換えてみましょう。

「自分の毎日を見なさい」。どういう意味だか分かりますか。「自分は本当に一所懸命勉強したり、掃除したりしているか、一所懸命毎日を過ごしているか、振り返ってみなさい」という意味です。

「なぜ、勉強しなくてはいけないのか」、「なぜ、掃除しなくてはいけないのか」については、後で学級担任の先生と一緒に話し合ってください。「なぜ、一所懸命毎日を過ごさなくてはいけないのか」。それは、「強い心」をつくるためです。辛いことや嫌なことから逃げずに、毎日、何事にも力の限り取り組むと、知らず知らずの内に、辛いことや嫌なことを我慢して前に進もうとする「強い心」が、皆さんの中に生まれるのです。

以上、「自分の足もとを見なさい」(「自分の靴をそろえなさい」)、「自分の心を見なさい」、「自分の毎日を見なさい」について話しました。これら三つの「見なさい」に共通することは何だと思えますか？それは、「皆さん一人一人が、いつも、自分がやっていることや自分が思っていることを注意深く振り返ること」です。このように自分自身を振り返ることが、皆さんに、「落ち着いた毎日」だけでなく、「思いやりの心」と「強い心」をプレゼントしてくれることを忘れないでください。



新任校長の言葉

率先垂範 ～朝の挨拶から～

福井市東郷小学校長 松田 実

朝7時35分、黄色のジャンパー姿に「横断中」の旗を持ち、校門前の横断歩道に立つ。集団登校の子どもたち231名一人一人に、彼らの目を見ながら「おはようございます」と挨拶をする。これが私の日課です。4月当初はこちらの声掛けに、恥ずかしさからか俯いて反応しなかった子どもたちも大勢いましたが、5月にはほとんどの子どもが挨拶を返し、6月には90%以上の子どもが自分から私の目を見て「おはようございます」と言ってくれるようになりました。これまで私は子どもたちに、「挨拶を返すように」とか、「こちらの顔を見るように」などと挨拶について指導したことは一度もありません。5月の集会時の話で、「挨拶を返してくれる人が増えてうれしい。」と言ったことくらいです。元々子どもたちに挨拶をさせるためにこちらから挨拶をしていたわけではありませんでした。早く子どもの顔と名前を覚え、毎日の表情の変化を捉えるために校門前に立って挨拶をしながら観察したかっただけです。しかし子どもたちは、私の行動から挨拶の本当の意味を自分なりに感じて、自分の意志で挨拶を返してくれるようになりました。その挨拶を今後どのように広げていくかには課題はありますが、手本を見せることで自然と変化が現れることを感じました。このことは、先生方も同じで、子ども一人一人に声掛けをしてくれる先生方が増えているように思えます。本当に有り難いことだと感じるこの頃です。

朝、子どもたちを待ちながら

福井市清水東小学校長 高澤 輝美

「おはようございます。」目と目を合わせ、きちんとお辞儀をする子どもたち。私の朝の至福のひとつです。笑顔もあれば、眠そうな顔もあります。校区外からお母さんに連れられて来る子もいます。昨晚叱られた子もいることでしょう。それでも皆、今日も学校に来ました。

いろいろな思いを胸に子どもたちは学校に来ます。来ることが当たり前ではない…。校長として、朝、校門で静かに子どもたちを待つこの時間を得たからこそ実感することができました。

学習や連絡のことで朝から気を張っている担任に、校門で気になった子どもの様子を伝えに教室に向かいます。うまく一日が回り出すことを願って。友達の中で、新しい学びの中で、子どもたちの一日が心地よく、活気にあふれるよう整えていくのは校長の大事な役目です。身が引き締まります。

教職員は皆、若者もベテランもきびきび働いています。本当に頼もしい限りです。彼らが自信をもって自分のやりたい取組にチャレンジできるよう、背中を押していきたいと思えます。彼ら自身が、主体性をもった子どもを育てるためのお手本となるように。

子どもたち、教職員、保護者、地区…。じっくり見つめる眼差しをいつまでも失わずにいたい。何が学校に求められているのかを考え続けるために。

個の力を生かす集団を目指して

あわら市金津小学校長 志田 聖一

久しぶりの学校現場復帰。素晴らしい先輩方が築いてこられた伝統ある学校で、素晴らしい同僚と共に勤務できますこと、大変嬉しく思うと同時に身の引き締まる思いです。

さて、本年6月から7月にかけて開催された2018FIFAワールドカップロシア大会での「SAMURAI BLUE」の熱き戦いに日本中が歓喜したことは記憶に新しいところです。監督と選手、スタッフ、サポーターが一つの目標に向かって一致団結し、お互いがお互いの長所を生かし、短所を補いながら時々の局面を打開していく姿は、学校に求められている「チーム学校」に通じるものが多々あります。

私は校長として、チームの進む方向を明確に示し、最前線で活躍する教職員が「個の力」を十分に発揮できる環境を整えていきたいと考えます。そのために、日頃から地域のニーズに耳を傾け、教職員の特性や関係機関との連携に配慮した適切なマネジメントを行っていけるよう高いアンテナを持ち続けたいと思えます。

また、本校は地域に支えられた学校でもあります。毎日の登下校での見守り、ボランティアの方々による読み聞かせなど様々なかたちで保護者、地域の皆様に支えられています。地域の方々から信頼され、期待に応えられるよう教職員一同が全力で取り組んでいきたいと思えます。

小さくても「きらり」と輝く学校を目指して

勝山市立野向小学校長 島田 雅仁

野向小学校での勤務は2回目になります。前は平成17年度から6年間勤務しました。初めて複式学級を担任したり、小学校1年生を担任したりと大変思い出深い学校です。業間には7分間走で体力づくりを行い、総合的な学習の時間には、「伝統文化を尊重する教育」の指定から始まった雅楽が、地域の方の協力を受けて行われています。自分たちが始めた活動が変わりなく継続しているのは、大変感激でした。

本校は児童数34名で、複式学級を有する少人数の学校です。学校教育目標を「かがやくひとみの野向っこ」としました。小さな学校だからこそ一人一人が「きらり」と輝いてほしいと願っています。教職員も同様です。学習指導要領が改訂され実施に向けて研究を進めています。アクティブラーニングが言われていますが、少人数の複式校では以前から主体的で協動的な学びが行われてきました。さらに深い学びにするためにどのようにしていくかが、今後の課題であると考えています。多忙化で業務改善も喫緊の課題となる中ですが、全員が一丸となり「チーム」として活動する学校経営を行い、「児童も職員もひとみの輝く学校づくり」を目指していきます。

「繰り返し語る」

鯖江市中河小学校長 伊部 大一郎

校長になったらこうしよう、と思っていたことの一つに「ビジョンを繰り返し語る」というのがあった。これは教育雑誌の中のリーダーシップ論の中から見つけておいた一文である。一年間繰り返し語る。これは一見進歩がないようにも見える。しかし、リーダーの文言が月ごとにくるくる変わっても、組織はそれについていけるだろうか？それよりも、一度掲げた旗印を一年間繰り返し語る。こちらの方がよほどよいように私には思えた。

そして、4月の新任校長研修講座である。講師の浅野先生は、「繰り返し語る」の有用性をまさに説明しておられた。私はこれに自信を深くした。そこで、手始めに、スクールプランは毎月の職員会議には必ず再掲することにした。そうしておいて、その中の文言を今、繰り返し語っている。中でも、言葉を変えながら私が繰り返すことは次の2つ。

- 1 「教科の言葉」を使って語れる児童を育てる。
- 2 児童の心の中に「保護者への敬愛の心」を育てる。

1は無論学力向上、2は野口芳宏氏の連載から着想を得たものだ。この2つを車の両輪として自校を運営していきたい。9月には学校評価によりその成果を検証し、職員には改めて目的までの道標を示していく。

「ありがとう」を伝える

越前市南中山小学校長 玉木 茂明

「おはようございます。」と真っすぐ目を見て元気に挨拶する子どもたち。どの子の瞳もキラキラ輝き、思わず笑顔になる。新任校に赴任した4月、学校横を流れる鞍谷川堤防の満開の桜。春霞の三里山をバックにした美しい景色に思わずうっとり。千三百年もの伝統を受け継ぐ奈良の都への赤米奉納。地域の方々の郷土への深い思いを感じる。この素晴らしい地域環境の中で、素直な子どもたちと、そして、熱心な先生方と一緒に毎日を過ごしている。南中山小学校のことをどんどん好きになっていく自分がいる。

学校は、実にたくさんの方々を支えられて成り立っている。校長一人では何もできない。唯一、校長にできることは、自分の学校を大好きになり、支えてくださる方々すべてに向かって「ありがとう」の気持ちを伝えていくことではないかと思う。地域を愛し、地域の未来を担う子どもを育てる。学校が子どもたちの安全安心な居場所となる。毎日、笑顔で子どもたちとあいさつが交わされる。学校として当たり前のようなことが、当たり前になることに感謝したい。そして、自分だけでなく、本校に関わるすべての方々が、南中山小学校のことをどんどん好きになっていくことを願い、「ありがとう」を伝えていきたい。

地域と共に歩む学校

敦賀市立敦賀西小学校長 滝本 律子

創設146年を迎え、古くは大谷吉継を城主とした敦賀城跡に建つ歴史ある敦賀西小学校に16年ぶりに校長として赴任した。16年の間に校舎の一部が、敦賀城をモチーフとした外観と木のぬくもりが優しい内観の校舎に建て替えられ、より落ち着いた雰囲気子どもたちを迎えている。そしてそこには以前と変わらない子どもたちの笑顔と学びに向かう姿があった。

この笑顔を決やすことなく、より輝かせる責任を自分が担うのだと実感した時、改めてその重さに緊張し、背筋がピンと伸びる思いがした。それでも、温かく協力的で、熱心に子どもたちや学校に関わってくださる保護者や地域の方々に接し、応援していただけることの喜びも大きかった。先日の地震後の校区安全点検にも、多くの方が参加して下さり、大変心強かった。守られていることの喜びも強く感じる事ができた。地域の思いや願いを受け止め学校経営に生かし、子どもたち一人一人をより力強くより豊かに育てるためにも、地域には積極的に足を運び、お顔を拝見しながら話を聞きたいと思っている。

今、休み時間には校長室に子どもたちが訪ねてきて、松尾芭蕉の敦賀縁の俳句や百人一首の暗唱に取り組んでいる。子どもたちと直接やりとりのできる貴重な楽しみの時間となっている。

地域と共に歩む

若狭町立三宅小学校長 玉井 茂博

本校は、名水百選に選ばれている「瓜割の滝」を校区にもつ児童数94名の小規模校である。校長就任にあたり、多くの方から励ましの言葉をいただいた。母校で勤務できる喜びとともに、その責任の重さに改めて気の引き締まる思いである。

過去、教諭として本校勤務もある中、今でも心に残っているのが創立百周年記念事業である。記念誌に目を通すと、「ふるさとの自然と歴史の中で共に学び続ける」、「百年のあゆみ」といった言葉と共に、当時の授業や修学旅行、畑づくりなどの様子が掲載されている。現在本校では、地域の方々にお世話になりながら、サツマイモやもち米の苗植えをはじめ、白ネギ、大豆の栽培、外部講師を招聘してのクラブ活動などを行っている。先日は田んぼアートにも参加させていただくことができた。新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程が重視され、県では、地域と進める体験推進事業が展開されているが、本校は百年以上もの長い時の中、常に地域と関わり、地域の意見を取り入れながら、その歴史を重ねてきた。

変化の激しい時代ではあるが、時代を超えても変わらない価値のあるものを大切にしながら、時代の変化に合わせて変えていく必要があるものを取り入れ、今後も地域と共に歩む学校でありたいと考える。

編集後記

この度、「会報」107号を発行する運びとなりました。「会報」の発刊にあたりまして、福井県知事 西川一誠様、福井県教育委員会教育長 東村健治様にはお忙しい中、玉稿を賜りましたこと、心から厚く御礼申し上げます。また、会員の皆様には豊富な経験をもとにした貴重な原稿をお寄せいただき、お陰様で充実した内容となりました。深く感謝申し上げます。県小学校長会では新たにHPを立ち上げました。「会報」も含め、県小学校長会の活動を随時掲載していきます。今年度もこの「会報」が、会員相互の情報交換の場となり、また、校長としての役割を果たす一助となりましたら幸いです。